

告 辞

ここ沖縄では、至るところで草木が芽吹き、山々を新緑に染め上げて、うりずんの初夏を思わせる季節の到来となりました。このよき日に、保護者、同窓会、並びに来賓の皆様のご臨席の下、平成27（2015）年度の琉球大学の学部卒業式並びに大学院修了式を挙げて行うことができますことは、衷心の慶びとするところでございます。

琉球大学を代表して、学部卒業生1、539名、大学院修了生267名、計1、806名の諸君の卒業及び修了を心から祝福申し上げます。小学校入学から今日まで物心両面で支えてこられたご家族の皆様方と、本日のこの喜びを共に分かち合いたいと思います。また、母国を離れて異なる環境で頑張ってきた留学生諸君の奮闘努力にも敬意を表します。帰国後は、琉球大学の同窓生として、皆さんの母国と沖縄、そして日本との友好の架け橋になって貰いたいと切望いたします。

皆さんが青春を過ごした学舎である琉球大学には、「自由平等、寛容平和」という建学の精神があります。多くの私立大学は創設者の意志を建学の精神に込めて掲げていますが、国立大学では実は非常に珍しいことなのです。

この四つのキーワードからなる建学の精神は、第16代米国大統領・エイブラハム・リンカーンのゲティスバーグでの演説や大統領就任演説を貫いている精神を集約して表現したものです。創立以来65年余にわたって、琉球大学はこの建学の精神を「真理の探究」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」の基本理念として継承・発展させ、教育研究や社会貢献、国際連携を展開してきました。諸君は、「自由平等、寛容平和」の精神を持ったグローバルリーダーとして、本日、琉球大学を巣立っていきます。琉球大学の卒業生・修了生としての自覚と誇りを持って、幅広く大きく活躍されることを期待いたします。

大学改革が叫ばれる中、国境を越えた多様で複雑な課題に直面する現代社会にあって、「大学として、自立した21世紀型市民・グローバルシティズンを育成していくことは、学生個人の幸福と社会全体の発展それぞれの面で極めて重要な要請であり、現代の大学の担うべき公共的な使命である」ということが、中央教育審議会の審議のまとめとして2008年4月に出されました。

琉球大学はここでの主張を真摯に受け止めて、「社会からの信頼に応え、国際通用性を備えた学士課程教育の構築の実現」への活動を本格化し、その最初の取

組として、学部の教育課程を体系化・構造化する琉大独自の教育改革を行いました。それが琉大グローバルシティズン・カリキュラム（URGCC）です。自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題発見・解決力、専門性という七つの学習教育目標を掲げ、グローバルシティズン・地球市民を育成し、社会に輩出するプログラムとして、URGCCを平成24（2012）年度から導入しています。

学部を卒業する皆さんの多くは、平成24（2012）年4月に入学した学生です。したがって、皆さんは琉大グローバルシティズン・カリキュラム（URGCC）の学士教育プログラムによって学び、多様な学生生活を通して貴重な体験を経て、本日めでたく卒業するURGCCの第1期生です。

本日、皆さんはグローバルシティズンとしての素養や社会人基礎力を身に付けて卒業するわけですが、大学も地域社会も皆さんの活躍に期待するところがたいへん大きいことを強調しておきます。どうぞ、沖縄と世界を繋ぐ津梁・架け橋となる有為な人材となって下さい。

大学院を修了して修士号や博士号を授与された皆さんに対しては、これまでの情熱と忍耐と努力に敬意を表します。21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる知識基盤社会の時代であると言われています。皆さんは、知識基盤社会を多様に支える高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人として、あるいは創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者として、社会に巣立っていきます。奢ることなく、職業倫理や研究者倫理をしっかりと身に付け、常に人格を磨き、多くの尊敬を集められるグローバルリーダーになってもらいたいと希望いたします。

国連難民高等弁務官を務めた緒方貞子とアジア初のノーベル経済学賞受賞者であるアマルティア・センが共同議長を務めた、国連の人間の安全保障委員会が提唱する「人間の安全保障」という概念があります。「人間の安全保障 Human Security」とは、「人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方」です。具体的な指標として、所得と教育と寿命で捉えられる概念です。

この人間の安全保障に関連して、日本における社会経済的矛盾の表れとして、ここにきて社会問題化しているのが子どもの貧困問題です。2012年の17

歳以下の子どもの貧困率は13・8%であり、子どもの5人に1人が貧困状態におかれているといわれていますので、かつて **Japan as Number One** といわれた、この国の凋落・衰退を改めて感じているところです。翻って、沖縄県における子どもの貧困率は、37・5%と全国ワースト・ワンであり、県民を挙げて早急に取り組まなければならない状況にあります。貧困問題は、経済格差が教育格差を生み出し悪循環する、という負の連鎖をもつ社会問題です。

以上のような問題以外にも、地域紛争はもとより、テロや難民問題、感染症の広がりなど、人間ひとりひとりの安全、いわゆる人間の安全保障にとって脅威となる事象が生じており、このような脅威への適切な対処策が求められています。また、解決が急がれる沖縄における固有の問題や全国的な問題もあります。

本日、学士課程を卒業する皆さん、そして大学院課程を修了する皆さんは、大きな潜在可能性を持っていますので、このような社会的諸問題や社会的矛盾に対して関心を持ち続け、それぞれの人生や日々の暮らしを豊かにしていくことのために自ら行動し、地域社会や国際社会のために貢献できる人になってもらいたいと願います。皆さんの心身の健康と限りない幸せを祈って、この琉球大学から社会という大海へ皆さんを送り出すことにします。本日は、誠におめでとうございます。

平成28（2016）年3月18日

国立大学法人琉球大学

第16代学長 大城 肇